

小麦品種「ゆきちから」の赤かび病に対する薬剤散布間隔

古川農業試験場

1 取り上げた理由

本県では、これまでムギ類赤かび病に対する薬剤慣行防除について、麦種あるいは品種の違いに関わらず一律2回としてきたが、コムギ品種「ゆきちから」については、赤かび病に対する抵抗性が弱く登熟後期にも病勢の伸展が顕著であるため（普及に移す技術第80号参考資料）、薬剤散布回数を3回としている（普及に移す技術第82号参考資料）。今回は、薬剤散布の間隔について検討したところ、7～10日間隔とするのが適当であることが明らかとなったので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) コムギ品種「ゆきちから」の3回防除体系について、それぞれの薬剤散布間隔を7～10日とすることで、14日間隔よりも発病は抑制される（図1、2）。
- 2) 薬剤防除間隔を7日または10日とすれば、成熟後期までの防除効果が認められ、粒厚の高い粒での赤かび粒発生は抑制される（図2、3）。

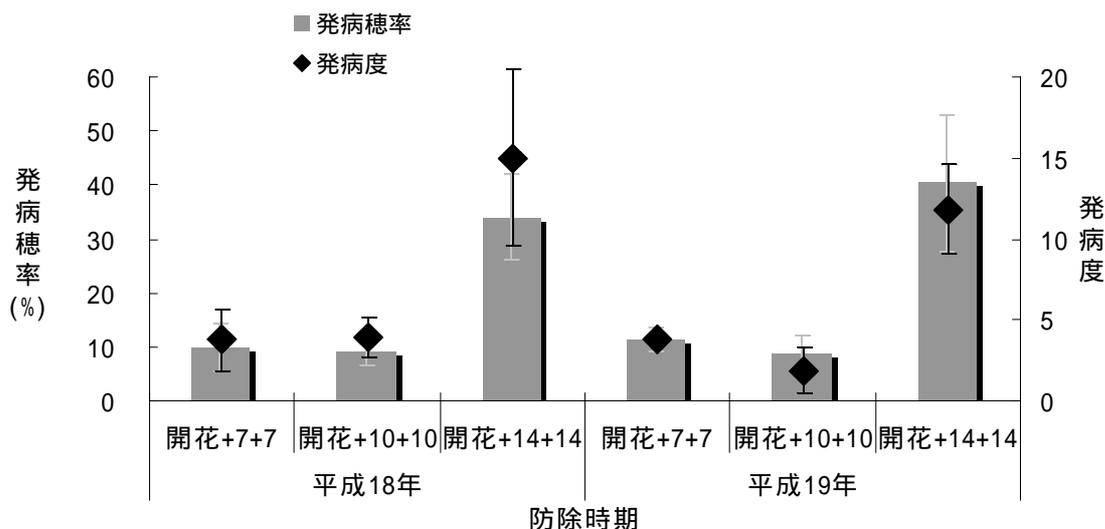


図1 防除時期別赤かび病発病総率及び発病度

注1) バーは標準誤差

注2) 発病度: (発病総率 × 発病指数)

3 利活用の留意点

- 1) 本結果は、平成18年及び平成19年、場内において伝染源を散布した試験の結果である。
- 2) 本試験に用いた薬剤は、チアネートメト剤のみとした。しかし、本剤の登録は出穂期以降2回以内の使用回数であるので注意を要する。
- 3) 開花期は開花小穂率30～50%とした。
- 4) 赤かび病対策としては、薬剤防除のほか、適期播種や粒厚選別、比重選別等の技術も組み合わせた防除対策が不可欠である。
- 5) 本試験では、「脱色白粒かつしわ粒」を赤かび粒として扱った。

(問い合わせ先: 古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

ムギ類赤かび病回避のための防除技術の開発（平成16～20年度）

2) 参考データ

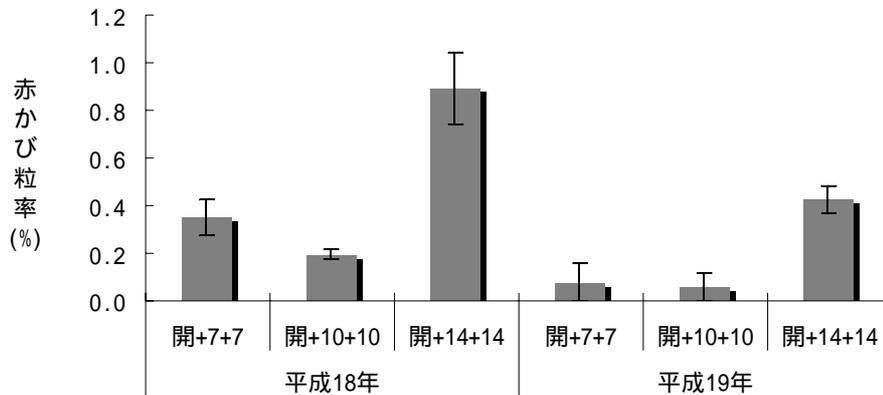


図2 防除時期別赤かび粒率（全粒）

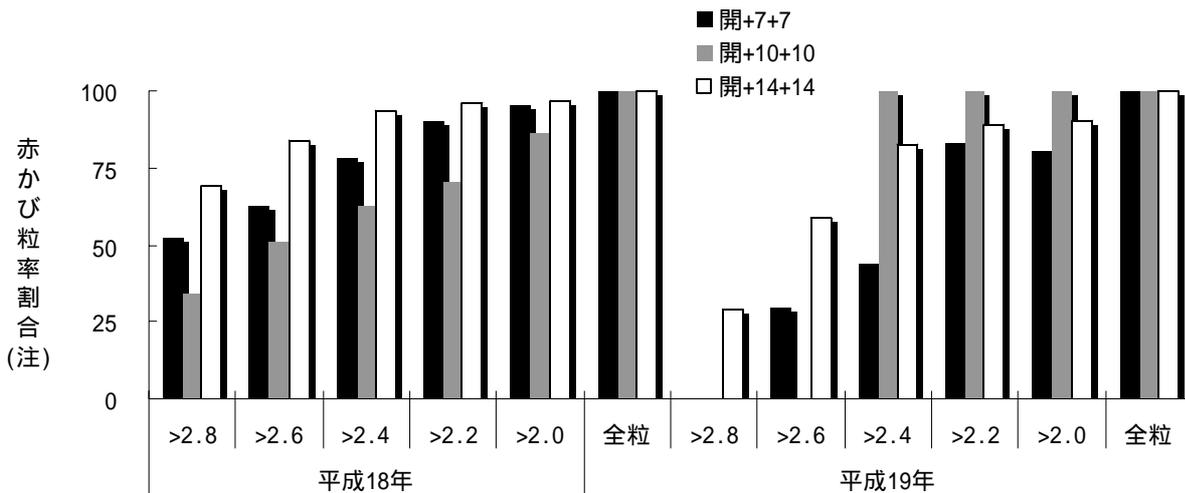


図3 粒厚別赤かび粒率割合

注) 全粒での赤かび粒率を100とした時の割合
 (各粒厚別赤かび粒率 * 100) / 全粒赤かび粒率

3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術

- a) コムギ新奨励品種「ゆきちから」における赤かび病の病勢伸展の特徴と防除（第80号参考資料）
- b) コムギ品種「ゆきちから」の赤かび病に対する第1回目の防除時期（第81号参考資料）
- c) コムギ品種「ゆきちから」の赤かび病に対する薬剤防除回数（第82号参考資料）